

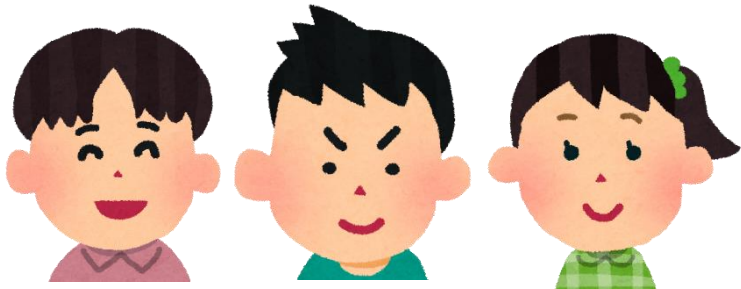
令和5年度(2023年度)

英語授業づくりプロジェクト～小学校～



英語が「好き」「わかる」「できた」と
児童生徒が実感できる授業づくり

コミュニケーションを行う目的や場面などを設定した
言語活動の充実と基礎的・基本的事項の定着を目指して



令和5年(2023年)6月29日(木)

菊池教育事務所

(1) 開会行事

① 県教育委員会挨拶

菊池教育事務所

主幹兼指導課長 工藤 竜一

(1) 開会行事

② 日程等連絡

(1) 開会行事 研修Ⅰ 管内の現状と課題及び 本事業の目標について	9 : 0 5 ~ 9 : 3 5
(2) 研究授業 (2校時) 大津町立室小学校 プロジェクトリーダー 奥村 まどか 教諭	9 : 4 5 ~ 1 0 : 3 0
(3) 研修Ⅱ 授業研究会	1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 1 0
(4) 研修Ⅲ 班別協議 課題解決に向けた 本年度の取組について	1 1 : 1 0 ~ 1 1 : 4 0
(5) まとめ・閉会	1 1 : 4 0 ~ 1 1 : 5 0

**③管内の現状と課題
及び
本事業の目標について**

～本日のめあて～

英語が

「好き」「わかる」「できた」

と児童が実感できるための

具体的な授業づくり

について学ぶことができる



～Question～

今年の授業クラス・学年

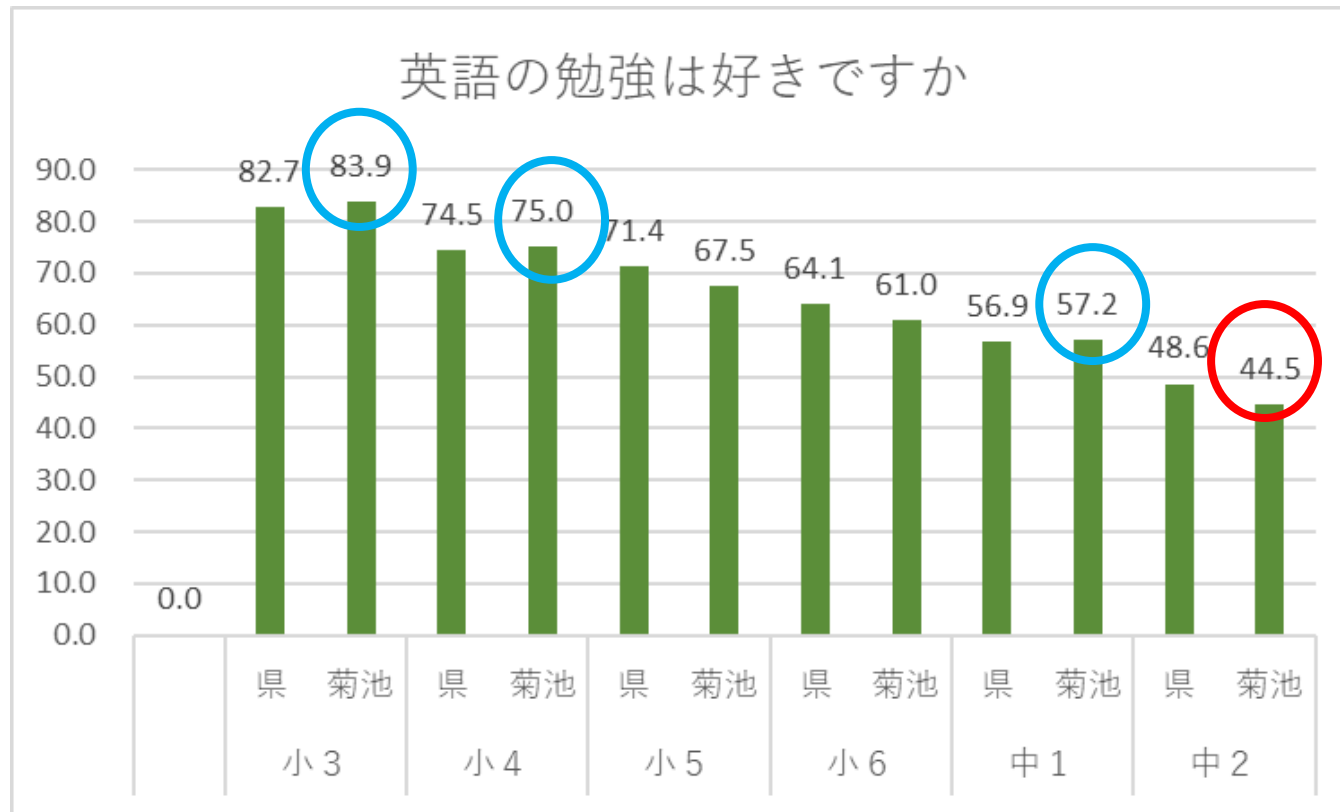
英語が

- ① 「好き」「わかる」割合は？
- ② 今年の課題は？



③管内の現状

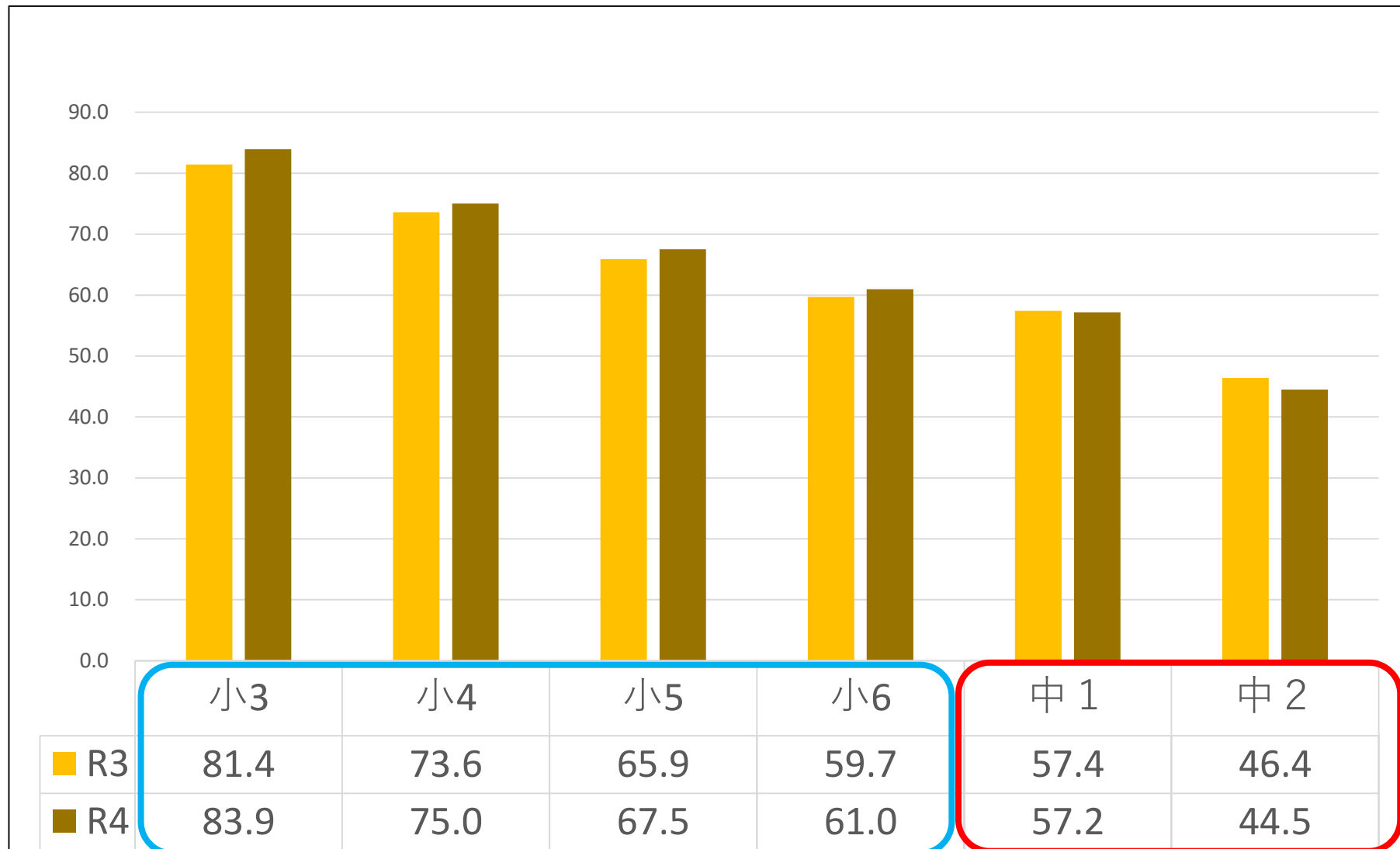
【R4県学調】 「英語の勉強は好きですか」



- 小3・小4・中1は英語の勉強が好きの割合が県平均を上回っている。(参考：R3は小3以外すべて下回っている)
- ▲小5から英語の勉強が好きの割合が下がっている。特に中1から中2にかけて英語の勉強が好きの割合が大きく低下している。

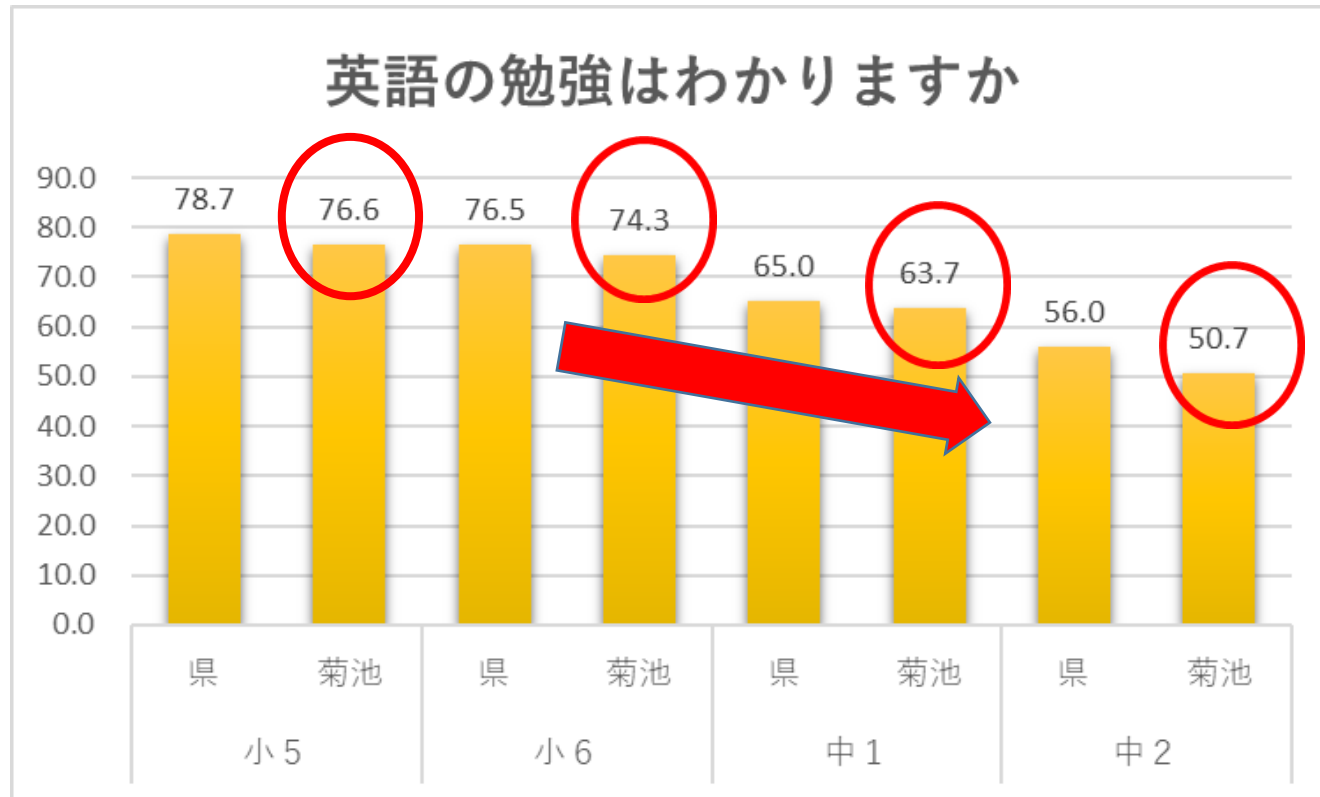
③管内の現状

【R3・4県学調】 「英語の勉強は好きですか」 肯定的回答率



③管内の現状

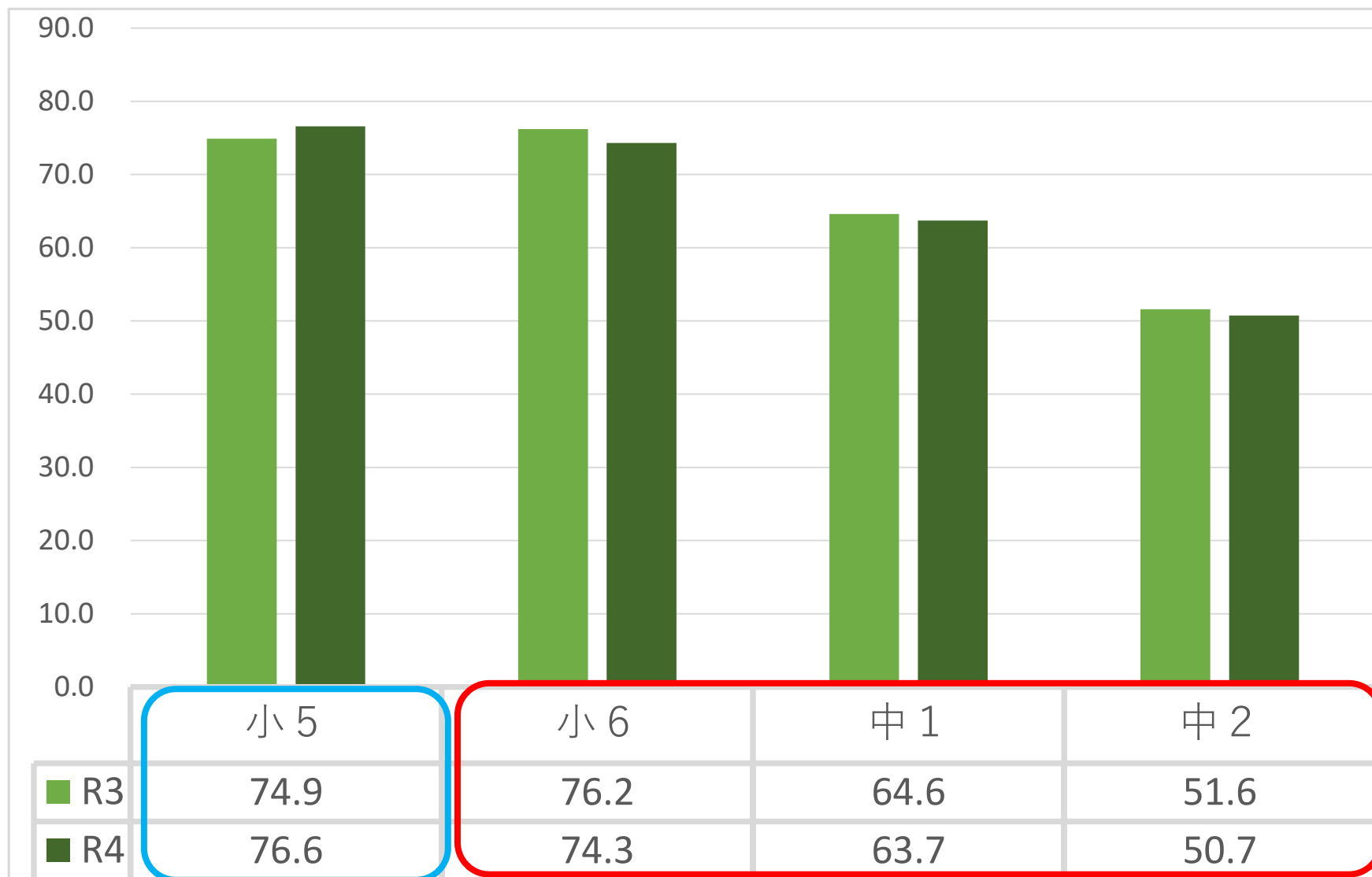
【R4県学調】 「英語の勉強はわかりますか。」



- ▲小5～中2まで英語の授業の内容が分かるの割合がすべて県平均を下回っている。(R3同様)
- ▲小6から中1、中1から中2にかけて英語の授業の内容が分かる割合が大きく低下している。(R3同様)

③管内の現状

【R3・4県学調】 「英語の勉強はわかりますか」 肯定的回答率



③管内の現状

【R4県学調】

中学校	中 1	中 2
	英語	英語
県を100とした時の割合		
菊池	105.3	100.8

○中1は県を約5ポイント上回っている

○中2においてはほぼ同位であるが、やや上回っている

③管内の現状 現2年生

【R4県学調】～観点別～

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
管内 平均正答率	61.2	44.1	33.2
県 平均正答率	58.4	41.2	29.2
	2.8	2.9	4.0

【R4県学調】～領域別～

	聞くこと	読むこと	書くこと
管内 平均正答率	68.6	51.1	46.9
県 平均正答率	66.1	48.8	43.5
	2.5	2.3	3.4

- すべての項目で県平均を上回っている。
- 「書くこと」の数値がやや高い。

③管内の現状 現3年生

【R4県学調】～観点別～

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
管内平均正答率	57.4	41.5	32.5
県平均正答率	57.5	40.5	31.1
	-0.1	1.0	1.4

【R4県学調】～領域別～

	聞くこと	読むこと	書くこと
管内平均正答率	65.0	50.3	38.0
県平均正答率	64.7	50.1	37.0
	0.3	0.2	1.0

▲知識・技能が課題となる。

○「書くこと」の数値がやや高い。

③管内の現状

【R4県学調】

正答率40%未満の生徒（中学校）

中学校英語	受検者数	40%未満	割合
1年（現中2）	1951人	560人	28.7%
2年（現中3）	1935人	660人	34.1%

小学校から全ての子供たちが「分かる喜び」

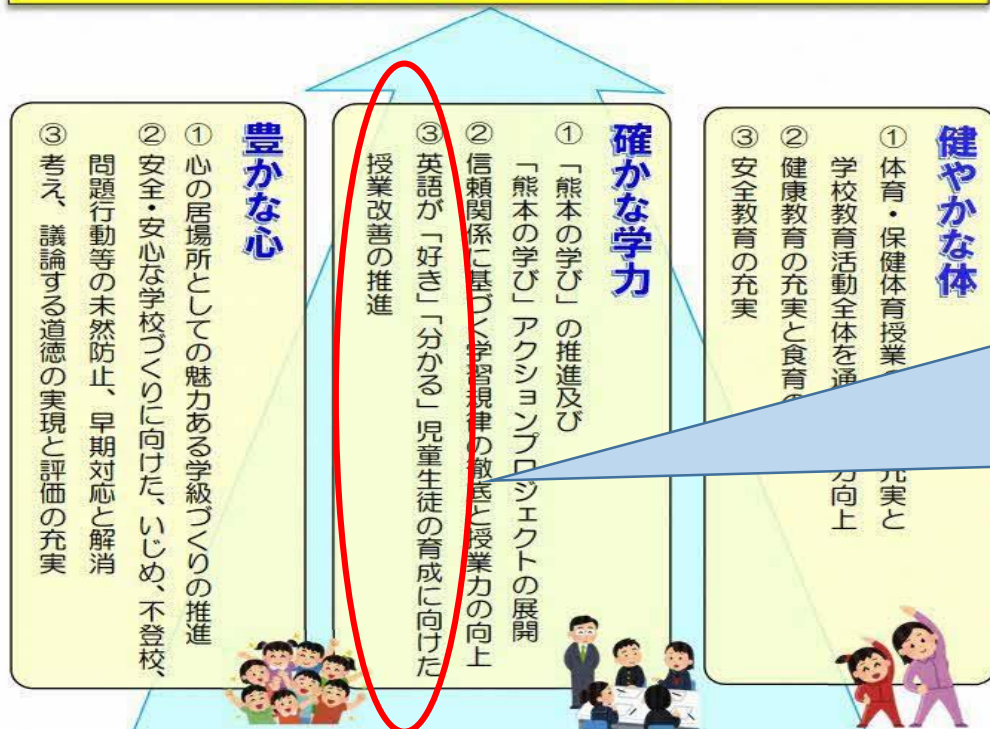
を感じられる授業づくりを



③本年度の目標

令和5年度（2023年度）
菊池教育事務所取組の方向

夢を実現し 未来を創る 菊池っ子の育成
～誰一人取り残さない菊池の教育～



英語が
「好き」「分かる」
児童生徒の育成に向け
た授業改善の推進

◎ICT の効果的な活用と情報活用能力・情報モラルの育成

◎キャリア教育の視点による幼・保等、小、中の連携

◎特別支援教育の推進～特別支援教育に係る資質と専門性の向上～

家庭

との連携

コミュニティ・スクール

地域

との連携

人権教育の充実～部落差別（同和問題）を人権問題の重要な柱として～

③本年度の目標

令和5年度（2023年度）菊池教育事務所 重点取組 事項

グローバル人材の育成に向けて、**小中連携**のもと、**英語が「好き」「分かる」**児童生徒の育成のために、コミュニケーションを行う目的や場面などを設定した**言語活動の充実**及び**基礎的・基本的な事項の確実な習得**を図り、英語の授業改善の推進を図る。

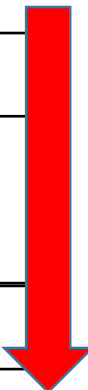


英語が「好き」「わかる」「できた」と 児童生徒が実感できる授業づくり

コミュニケーションを行う目的や場面などを設定した
言語活動の充実と基礎的・基本的事項の定着を目指して

【今後の計画】

第1回管内等研修後	各学校で研修内容等の周知・実践 (P・D)
第2回管内等研修 11月24日(金)午後	菊陽町立菊陽中部小 一枝 栞 教諭 公開授業及び実践交流 (C)
第2回管内等研修後	各学校で研修内容等の確認・実践 (A)



【参考】

～令和5年度 英語教科等研修会 目標～

円滑な小中接続のための

連携のあり方と授業改善について

本年度の取組 ～授業づくり省察シートについて～

【授業づくり省察シート】

小学校

中学校

令和5年度（2023年度）英語授業づくりプロジェクト～小学校～ 授業づくり省察シート	
---	--

【授業づくり省察の視点】	
ア 指導と評価の一体化を図る授業のために（CAN-DOリストの作成及び活用）	
① 学年の学習到達目標を踏まえて、単元の目標及び評価規準を適切に設定しているか（領域別目標の焦点化）	○
② 単元を通して学習課題を達成した子供の姿を児童と共有し、単元を通して児童が見通しをもって学習に取り組むことができるよう手立てを回っているか	○
③ 単元の目標を達成した児童の姿を具体的にイメージ（見える化）し、児童ができるようになった適切な時期に、適切な方法で記録に残す評価を実施しているか	○
④ 学年の学習到達目標を達成できたか適切に見取るため、各単元とは別に、内容のまとまりごとに、学期に1回程度のパフォーマンステストを実施しているか	○
イ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる言語活動のために ※小学校外国語（活動）における言語活動 「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」	
① 言語活動には、次の4つの要素が満たされているか 1) 「伝え合う必然性があるか」 2) 「相手意識をもって取り組むことができるか」 3) 「『本物』のコミュニケーションであるか」 4) 「コミュニケーションの意義や楽しさを感じられるか」	○
② 単元を通して、1単位時間の授業の中心が「言語活動」となる授業を実践しているか	○
③ 言語活動では、「練習して口慣らしをしてから使ってみる」だけでなく、「実際に使いながら習得させる」指導を実践しているか	○
④ 単元を通して、（前学年、前単元までに学習した）既習事項を繰り返し活用し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて伝える内容や表現を工夫する言語活動を実践しているか	○
ウ R5英語授業づくりプロジェクトの目標	
① 英語が「好き」「わかる」「できた」と児童が実感できるための授業づくりを意識しているか	○

令和5年度（2023年度）中学校英語授業づくりプロジェクト～中学校～ 授業づくり省察シート	
授業づくり省察の視点 【 】 = 英語授業づくり10のポイント	
ア 指導と評価の一体化を図る授業のために（CAN-DOリストの作成及び活用）	
① 学年の学習到達目標を踏まえて、年間指導計画を設定し、単元の目標及び評価規準を適切に設定しているか 【ポイント1・2 年間指導計画】	○
② 単元のゴールの姿を設定し、その実現に向けた学習課題と子供の姿を生徒と共有しているか。また、バックワード・デザインで単元を構成し、単元を通して生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう手立てを回っているか 【ポイント3・5 単元デザイン】	○
③ 単元の目標を達成した生徒の姿を具体的にイメージ（見える化）し、生徒ができるようになった適切な時期に、適切な方法で記録に残す評価を計画し、実施しているか 【ポイント4 単元デザイン】	○
イ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる言語活動のために ※中学校外国語における異文化活動：「実際に異文化を仲間として互いの考えや気持ちを伝え合う活動」	
① 言語活動には、目的や場面・状況などを明確にした次の3つの要素が満たされているか 【ポイント6・7 授業】 1) 「伝え合う必然性があるか」 2) 「相手意識をもって取り組むことができるか」 3) 「授業を実際のコミュニケーションの場面に近づけているか」	○
② 指導は言語活動に取り組ませながら、内容面（目的や場面、状況に応じた内容になっているか）、言語面（正確な語彙・文法等を使用しているか）の2点から適宜行っているか 【ポイント7 授業】	○
③ 一人一人が「何ができるようになったのか」を明らかにし、自らの学びを振り返る時間を確保し、家庭学習及び次時への見通しを持たせているか 【ポイント8 授業】	○
④ 基礎的・基本的事項の確実な定着を図る手立てを行い見届けまで確実にしているか 【ポイント6・9・10 授業・振替】 1) 単語や基本文の定着状況を把握しているか 2) 個に応じた手立てをおこなっているか 3) 定期テストでは国や県の評価問題等を参考にし、文脈を伴った「知識・技能」の問題や初見の英文を用いた「思考・判断・表現」の評価問題を取り入れているか	○
ウ R5英語授業づくりプロジェクトの目標	
① 英語が「好き」「わかる」「できた」と生徒が実感できるための授業づくりを導いているか	○

【指導と評価の一体化について】

【授業づくり省察の視点】

ア **指導と評価の一体化**を図る授業のために（CAN-DOリストの作成及び活用）

- ① 学年の学習到達目標を踏まえて、単元の目標及び評価規準を適切に設定しているか
（領域別目標の焦点化）
- ② 単元を通じた学習課題を達成した子供の姿を児童と共有し、単元を通して児童が見通しをもって学習に取り組むことができるよう手立てを図っているか
- ③ 単元の目標を達成した児童の姿を具体的にイメージ（見える化）し、児童ができるようになった適切な時期に、適切な方法で記録に残す評価を実施しているか
- ④ 学年の学習到達目標を達成できたか適切に見取るため、各単元とは別に、内容のまとめごとに、学期に1回程度のパフォーマンステストを実施しているか

【言語活動について】

イ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる言語活動のために

※小学校外国語（活動）における言語活動

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」

① 言語活動には、次の4つの要素が満たされているか

1) 「伝え合う必然性があるか」

2) 「相手意識をもって取り組むことができるか」

3) 「『本物』のコミュニケーションであるか」

4) 「コミュニケーションの意義や楽しさを感じられるか」

② 単元を通して、1単位時間の授業の中心が「言語活動」となる授業を実践しているか

③ 言語活動では、「練習して口慣らしをしてから使ってみる」だけでなく、「実際に使いながら習得させる」指導を実践しているか

④ 単元を通して、（前学年、前単元までに学習した）既習事項を繰り返し活用し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて伝える内容や表現を工夫する言語活動を実践しているか

【英語授業づくりプロジェクトの目標】

ウ R5英語授業づくりプロジェクトの目標

① 英語が「好き」「わかる」「できた」と児童が実感できるための授業づくりを意識しているか

④授業の見どころ



5. 授業の見どころ



奥村まどか 先生の授業 の見どころ

ポイント	省察シート	見どころ
1	ア① (1) 言語活動 伝え合う必然性があるか	オースティン先生に日本や熊本の魅力を知ってもらうような紹介文の発表を単元を通した課題を設定とした
2	ア① (2) 相手意識をもって取り組むことができるか	オースティン先生に一度クラスに来てもらい、オースティン先生をイメージして取り組むことができるようにした
3	ア③ 実際に使いながら習得させる	中間指導を入れ、実際に言語活動を行う中で、楽しく自信を持って発話できるようにした
4	ア④ 単元を通して既習事項を繰り返し活用	Small Talkなどで前学年やこれまでに学習したことを繰り返し練習する
5	(その他) ICTの活用	授業の最後に自己評価の場面として音声を継続して残すことで、自己の振り返りを目指した